

## 第15回群馬地域リハビリテーション研究会のお知らせ

第15回群馬地域リハビリテーション研究会を下記の予定で開催します。内容は群馬リハビリテーションネットワークホームページや、関連団体事務局宛に送付したチラシでもご確認いただけます。開催会場が、昨年と変更になりましたので、お間違えの無いようご来場ください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】平成29年1月28日(土) 13:30～17:30(受付 13:00)

【場所】群馬会館 ホール

駐車場は県民駐車場(県庁)をご利用ください。開演直前は渋滞により駐車に時間がかかる場合があります。

【報告】13:40～14:00 群馬県の地域リハ関連情報

【講演Ⅰ】14:00～15:30

「群馬県民は超高齢社会を乗り切れるか リハ職への期待」

兵庫県丹波県民局 丹波健康福祉事務所 所長 逢坂悟郎 先生

【講演Ⅱ】15:50～17:20

「わが街ぐんまで、最期まで自分らしく安心して生きるために」

医療法人アスミス 理事長 太田秀樹 先生

【申し込み方法】

事前申し込み受付は平成28年12月14日(水)から開始します。

①インターネットによる申し込み:<http://www.orahoo.com/grn/> もしくはQRコードよりアクセスしてください。

②FAXによる申し込み:氏名、ふりがな、勤務先、職種、自家用車利用の有無、FAX番号を明記の上、申し込み先へ送信してください。一度に複数名の申し込みができます。

【申し込み・問い合わせ先】群馬地域リハ研究会事務局 TEL&FAX 027-220-8966



## 第5回介護予防サポーター交流大会

平成28年10月20日にイオンモール高崎にて第5回介護予防サポーター交流大会を開催しました。介護予防サポーター活動内容の展示、ステージ発表、その他、ミニ講話と健康体操・体験測定コーナーを設け、200名を超える来場がありました。以下は、出展いただいた方からのご意見ご感想です。

..... 館林市東毛光生園地域包括支援センター 保健師 五十嵐 由枝

館林市では今年度、パネル展示として介護予防サポーター事後研修の活動内容や、介護予防や健康づくりの住民主体の自主サークル「生きいきサークル」で行っている館林市独自の『元気はつらつ体操』などの状況を展示した。他地域の介護予防サポーターが、生きいきとした表情で舞台発表や活動内容を紹介している姿を拝見し、介護予防サポーター自身が、地域で介護予防の知識や活動を広めようという意識を持ち、自発的かつ積極的に活動している様子を大変よく理解することができた。館林市の介護予防サポーターの現状として、意欲的に活動する方がいる一方、地域貢献活動への関心が高いにも関わらず、人前で行うことが苦手なサポーターがいることがあげられる。現在、各地区公民館等17カ所で活動している「生きいきサークル」において、地域包括支援センターの支援のもと、介護予防サポーターが体操や脳トレ等の指導をしている。今後は、介護予防サポーターの活発な自主



活動を促すため、既存の介護予防事業へ参加するだけでなく、介護予防サポーター自身が、それぞれの地域で自主的に活動できるような仕組みを作っていく必要がある。

..... 桐生市地区介護予防サポーター連絡会 会長 鈴木 義次

今回は、桐生市のオリジナル体操「元気おりおり体操」に的を絞って、パネル展示をさせて戴きました。これは、平成23年7月の桐生市制施行90周年記念事業の一環として「桐生市歌体操」として発表されたものです。平成23年10月に第1回体操指導者研修会が開催されて、多くの介護予防サポーターもこの研修会に参加して、桐生市初のオリジナル体操として「元気おりおり体操」が誕生しました。「おりおり」とは、「西の西陣、東の桐生」と詠われた、「桐生織り」をイメージしたものです。毎年保健福祉会館で開催の桐生市主催の「けんこうまつり」では、市民広報活動の一環として、午前10時から午後3時まで本会の会員が交替でビデオ映像に合わせて、「元気おりおり体操」の体操指導をして居ります。又、当初は、市内の4か所の長寿センターで「元気おりおり体操」の普及事業を担当していましたが、現在は、市内10か所の長寿センター等で普及事業に取り組んでいます。「パネル展示だけでは勿体ない。」会員の皆様からそんな声上がり、ステージ発表に挑戦しようではないかと、事が拡大して、交流大会での実演披露となった次第です。実演して会場の皆様との本当の交流が持てました。ご来場の皆様方、私達を盛り上げて戴きまして誠にありがとうございました。桐生市へお越しの際は、是非とも私達の仲間にお入りください。「元気おりおり体操」は楽しい体操ですよ、お待ちしております。他団体の活動をみた感想ですが、今年は、出展の市町村が少なく、ちょっと残念でした。次回は多くの団体さんが参加されますよう望みます。



..... 渋川市介護予防サポーター 八高 久夫

渋川市の出展内容(パネル発表)は、①鬼石モデルの実施内容の紹介:鬼石モデルの日常生活における効能を紹介、同サポーター自身による自主的な活動、同レクでの脳トレゲーム、同市職員による認知症予防の講話の実施風景、②畳の上で行える筋トレ体操の紹介、③男性の参加者を増やすための試み:男性のみの集まりを利用して、徐々に健康と運動の重要性に誘導、④ぐんぐん教室など鬼石モデルの参加者を増やすための取組み:各種団体や個人への出張 PR、市主催とサポーターの自主活動へ結びつけた開催数・参加者が驚異的に増えた実施状況の紹介を展示した。参加した感想として、参加各市町の積極的な取組状況がパネルと実演紹介され、盛会であった。独自の健康体操や内容の充実と参加者増への工夫が見られ、参考になった。特に目を引いたのが男性参加者を増やす前橋市・渋川市の試みの紹介だった。健康寿命を延ばす上で、男性の参加を促すのは各市町村とも共通の課題であるが、両市とも今後を期待したい。愛知県東海市、埼玉県坂戸市、長野県松本市の取組がNHKのEテレ(10月21日)で紹介されていた産官学の一層の連携が期待される。群馬大学の山上先生の講義が非常に参考になった。折角の開催をサポーター以外にも積極的にPRできたら良いと思う。



#### 出展団体(アイエウ順)

**展示:**大泉町介護予防サポーター／桐生市地区介護予防サポーター連絡会 ひだまりの会／渋川市介護予防サポーター／「すみれ会」稲荷町集会所運動を目的とした地域の自助グループ／館林市高齢者支援課 館林市クローバー荘地域包括支援センター 館林市新橋地域包括支援センター 館林市東毛光生園地域包括支援センター 館林市社会福祉協議会地域包括支援センター／藤岡市介護予防サポーター／前橋市介護予防サポーター／みどりふれあいサポーター連絡会

**ステージ:**さらら玉村「筋トレ・脳トレダンス」／桐生市地区介護予防サポーター連絡会 ひだまりの会 桐生市オリジナル体操「元気おりおり体操」

**その他:**群馬大学大学院保健学研究科 山上徹也先生(理学療法士) ミニ講話と健康体操／体験測定コーナー「ふまねっと」で脳活性化体験 「2歩幅テスト」でロコモ値測定(骨・関節元気度)

# 全国地域リハビリテーション合同研修会 広島 2016 に参加して

群馬県地域リハビリテーション支援センター 山上徹也

H28年7月23日、24日と広島市文化交流会館で開催された、全国地域リハ合同研修会に参加しました。私の印象に残った、①特別講演「地域包括ケアを支える地域リハ活動」、②シンポジウム「リハ卒業へ、活動と参加に向けて」、③シンポジウム「地域に資するリハ。行政と療法士の協働、一歩前へ！」を紹介します。

## 1. 特別講演「地域包括ケアシステムを支える地域リハ活動」 講師：澤村誠志氏

本講演では、「地域包括ケア」と「地域リハ」の関係が説明されました。各の定義を表に示します。

地域包括ケア	高齢者の <u>尊厳の保持と自立生活の支援</u> の目的のもと、可能な限り <u>住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する</u>
地域リハ	障害のある人々や高齢者およびその家族が <u>住み慣れたところで、そこに住む人々と共に、一生安全に、いきいきと生活</u> が送れるように、 <u>医療や保健・福祉及び生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハの立場から協力し合って行うすべての活動</u>

**感想:** 目標（表の下線部）と目標達成のための手段（表の波線部）が、似ていると感じました。また地域包括ケアは英語では“Community based integrated care”と記載し、「integrate」の意味は「統合」です。医療と介護、地域住民と専門職、フォーマルとインフォーマル資源等を統合したケアです。その意味では地域リハより広い概念を持っているとも感じました。

## 2. シンポジウム「リハビリテーション卒業へ、活動と参加に向けて」

本シンポジウムでは外来、通所、訪問のそれぞれに所属するリハ職の講演がありました。

- ・「活動・参加」が強調される中で、機能面の評価・アプローチが軽視されているのではないか。
- ・「活動・参加につなげて、リハ卒業」という考え方に対して、「リハの卒業」と「介護保険サービスからの卒業」は整理する必要あり。サービスの卒業（移行）はあっても、リハの卒業は必要なのか？
- ・中～重度障害者でも、リハを継続しながら、暮らしの中で「活動・参加」を展開することは可能。

**感想:** 「活動・参加」というと障害の軽い方をイメージしがちですが、リハ専門職が接するどんな対象者であっても活動・参加につなげられるし、そのような視点を持つことの重要性を再認識しました。

## 3. シンポジウム「地域に資するリハビリテーション。行政と療法士の協働、一歩前へ！」

本シンポジウムでは保健師、リハ専門職、地域連携室職員の3者の講演がありました。

- ・保健師がリハ職に期待すること：①通いの場の支援（評価・体操指導）、②保健師への技術支援、③介護予防教室への支援（講話・体操指導）、④多職種が参加する研修会・交流会への参加。
- ・地域の要望に対するリハ職の対応：地域リハ広域支援センターが周辺のリハ病院（サポートセンターとして登録）のリハ職と協働。誰でも参加できる「リハカフェ」の開催。

**感想:** 地域包括ケアの構築に向け、地域からのリハ職に対する要望が増えることが予想されます。多くのリハ職が病院で勤務する現状では、各地域のリハ職が連携し（広域支援センターと周辺のサポート病院の連携）、効率よく対応する必要性を感じました。またリハ専門職の専門性を活かしたボランティアである「プロボノ」活動も重要と感じました。



### 県支援センター事務局便り (H28.4～H28.11)

- 4.11 ニュースレター26号発送
- 7. 8 支援センター受託団体である群馬リハネットの第1回理事会にて、平成28年度事業計画報告
- 9.14 県介護高齢課より事業予算を受入
- 10.20 第5回介護予防サポーター交流大会
- 10.24 第15回群馬地域リハ研究会部会
- 11.15 ニュースレター27号発行



# 群馬リハビリテーションネットワーク

## ニュースレター 18号

2016. 11. 15

### 平成28年度第1回群馬リハネット理事会

平成28年7月8日(金)19時から、群馬大学大学院保健学研究科西棟4階大会議室において開催された。群馬県からは、健康福祉部介護高齢課 吉田課長、尾池認知症対策主監、宮下補佐(企画推進係長)、高橋主幹が出席された。

議事に先立ち、新任理事の紹介及び挨拶(群馬県医療ソーシャルワーカー協会 狩野寛子、群馬県看護協会 荻原京子、群馬県身体障害者福祉団体連合会 生方良作(代理人))があった。さらに理事を辞退した団体(群馬県重症心身障害児(者)を守る会)の報告があった。

はじめに、(1)平成27年度県支援センター事業報告・精算書について、山崎県支援センター長より報告があり、「高齢者の暮らしを拓げる10の筋力トレーニングパンフレット」が好評で、他県の新潟県村上市、東京都国分寺市、東京都日の出町から、このパンフレットを基にした資料の制作があり、県内だけでなく他県でも活用されているとの、説明があった。

次に、(2)平成27年度群馬リハネット事業報告・決算報告について、山上事務局長より、報告があった。さらに、(3)平成27年度群馬リハネット監査報告について、会計監査田中理事より、事業執行及び決算ともに適正であったことが報告された。

(1)(2)(3)について、質疑なし、承認された。

次に、(4)平成28年度県支援センター事業計画書・見積書について、山崎県支援センター長より、説明があった。介護予防サポーター養成への支援「介護予防サポーター交流大会」の開催時期について、過去は、2月の開催だったが、積雪の心配のある季節を避けるため、今年度は年内に開催を予定している。研修会等(専門職・関連)の開催の会場について、群馬会館を仮予約済みだが、駐車場が混雑するので、他の会場も検討中。また、研修会(一般向け)の開催について、例年、群馬大学保健学研究科との共催だが、群馬大学保健学研究科から予算が確定していないため、詳細は未定だが、開催は維持したいと考えている。事業見積書で、研修会等(専門職・関連)の会場費については、無料または有料か未確定なため、計上しているとの説明があった。

次に、(5)平成28年度事群馬リハネット事業計画・予算案について、山上事務局長より、説明があった。予算案支出の部会議費理事会費予算額は、群馬大学の会場が今年度から有料となり、駐車券認証機利用もできず駐車料金が全額負担となったため、昨年度よりも若干増加している。そのため、他の会場での理事会開催も検討しているとの説明があった。山口副理事長より、群馬大学会議室利用料金についての補足で、以前は無料で利用できたが、近年は、利用料金が発生するため、他団体の研究会等での利用が困難になっている。但し、群馬大学との共催であれば、現在のところ、無料で利用でき、認証機の利用も可能である。群馬リハネットの会議を共催とするのは難しいので、群馬県庁の会議室をお借りするなど、他の会場を検討しているとの説明があった。宮下補佐より、他団体へ無料で貸出するのは難しいかもしれないが、事前に相談いただきたい旨の依頼があった。

飯島理事より、「地域リハビリテーション支援活動推進のための基礎資料作成について」途中経過報告があった。(4)(5)について、質疑なし、承認された。以上を持って、議事を終了した。

### 群馬リハネット事務局便り

(H28.4~H28.11)

平成28年11月現在会員等の状況

- \* 加入団体 33 団体
- \* 賛助会員 団体会員 2 団体  
(株)孫の手・ぐんま、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。
- \* 個人会員 1名  
7.4 ぐんま認知症アカデミー  
第11回春の研修会(後援)
- 7.8 平成28年度第1回理事会
- 10.20 第5回介護予防サポーター交流大会
- 10.27 平成28年度年会費納入依頼通知発送
- 11.15 ニュースレター 18号発行

### 編集デスク

山口晴保／山上徹也／角田祐子

発行

群馬リハネット／群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬リハネット事務局／

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax: 027-220-8966

E-mail: tsunoday@gunma-u.ac.jp